

日本の気候風土の中で生まれ、原風景をなす「和の建築」は、「伝統構法」とよばれる職人技術で造られています。「和の建築」は「和の文化」の基盤であり、それを築く「伝統構法」は自然素材である「木」を扱い、素材・資材・道具・それらの生産・流通を担う人々とその育成までを含む、総合的な技術です。

伝統構法は、自然の猛威に頑なに抵抗するのではなく、できるだけもちたえながら、必要に応じて軽微な損傷を引き受ける方向で進化してきました。「大事な部分を護り、壊れた部分を修理できる」技術は、今後必要とされる「持続可能な社会」にふさわしいものですが、質より量、効率最優先の価値観の中、不均一な自然素材を扱う高度な技術である伝統構法は、今や風前の灯火となっています。

「伝統構法を無形文化遺産に」は、この日本独自の価値をいまいちど見直し、誇りをもってこれを「世界の宝」として認めてもらおうという運動です。その高まりが、日本各地での伝統構法の復権、美しい風景の再生につながり、地域から持続可能な社会を創り出していく地道で確かな動きとなっていくことを望んでいます。

無形文化遺産 Intangible Cultural Heritage とは？

「無形文化遺産とは、慣習、描写、表現、知識及び技術並びに、それらに関連する器具、物品、加工品及び文化的空間であって、社会、集団及び場合によっては個人が自己の文化遺産の一部として認めるものをいう」(2003年の第32回ユネスコ総会で採択)

※世界遺産が建築物などの有形の文化財の保護と継承を目的としているのに対し、無形文化遺産は、民族文化財、フォークロア、口承伝統などの無形のものを対象とする。

日本の主な無形文化遺産

【民俗芸能】アイヌ古式舞踊、早池峰神楽 【祭り】京都祇園祭の山鉾行事
【舞台芸能】能楽、人形浄瑠璃文楽、歌舞伎 【暮らし】和食
【手工芸】結城紬、小千谷縮、和紙 など

選考基準

1. 人類の創造的才能の傑作としての卓越した価値
2. 共同体の伝統的・歴史的ツール
3. 民族・共同体を体現する役割
4. 技巧の卓越性
5. 生活文化の伝統の独特の証明としての価値
6. 消滅の危険性

会員募集

伝統構法のユネスコ無形文化遺産への登録をめざすこの運動に賛同し、さまざまな形で支えていただける方の参加をお待ちしています。お申込みは Web サイト上のフォームより。または、FAX かハガキでお名前・所属・ご住所・連絡先をお知らせください。

個人会員：入会金 5 千円、年会費 1 万円

団体・法人会員：入会金 1 万円、年会費 1 万円

口座番号：(ご寄附もこの口座にて受け付けています)

・ゆうちょ銀行 00950-5-173567 (ゆうちょ銀行からの場合)

○九九店 当座 0173567 (他行からの場合)

・三菱東京UFJ銀行 出町支店 普通 0150686

口座名義：伝統木造技術文化遺産準備会

入会のご案内と振込用紙をお送りし、メールニュース等で随時活動をお知らせします。

会員の活動内容

- ・この運動について広く知らせる。
- ・具体的には：署名を集める、ロゴマークを使う、ちらしを配る、話題にする、などを通して「伝統構法」を周知・広報していく。
- ・主催イベントの運営に協力・参加する。
- ・地元や自分のフィールドで「伝統構法をユネスコ無形文化遺産に」と冠した関連イベントを自主的に企画運営する。

予定されている関連イベント

2015年春

座談会「伝統構法の暮らしと健康」 於：東京都内

2015年夏

「道具と大工」シンポジウム 於：東海地区

2015年9月

「地域と共に生きる加子母明治座 改修完成フォーラム」
於：岐阜県中津川市

2015年11月

「伝統構法と地域性～土佐に見る」 於：高知市内

伝統木造技術文化遺産準備会の役割

- ・国とユネスコに対するはたらきかけ
- ・そのための広報活動やネットワークづくり
- ・主催イベントの企画運営(年に2回程度)
- ・伝統構法に関するイベントへの支援(共催、後援など)
- ・Web サイトでの関連イベント情報の発信
- ・正会員のお名前を Web サイト上で公開し、この運動を支援している意志表示をします
- ・メールニュースの配信

© 竹中大工道具館



伝統構法を UNESCO 無形文化遺産に!
[キックオフフォーラム]

2015年
3月28日(土)

13:00 ~ 17:00 (開場 12:50)

会場：ひと・まち交流館 京都

京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83-1
(河原町通五条下る東側)

参加費：1,000円

主催：伝統木造技術文化遺産準備会
<http://dentoh-isan.jp/>



伝統構法



とは？

社寺、数寄屋、民家などの日本建築を支えて来た建築技術です。地域らしい町なみや風景を形作り、日本人の精神性や暮らしを支えてきたものでありながら、消滅の危機に瀕している伝統構法。これを「過去の遺産」としてでなく、つねに時代に沿って変化しつつ未来に引き継いできたものとして再評価し、復権させること。それによって、日本らしい美しい景観が再生することを願っています。

構造

木組み・貫・石場建て・土壁などの変形性能に重きを置き、木のめり込み、軋みを生かす構造。



伝承

その技や知恵は、現場を通して、人から人へと教え、伝えられてきました。



担い手

大工、左官、建具、瓦、道具鍛冶、林業、製材など、多くの人の下支えがあってこそ、成り立ちます。



暮らし

自然と交わる暮らしの場となり、季節を感じ、調和を尊ぶ心を育てます。



心構え

自然と対立するのではなく融和する心調和・共生の思想に根ざしています。



結び

共同作業が、コミュニティの力を強め、確かなものにしてきました。



技術

木の性質を読んで判断する「目」、適材適所に生かす「手」。



文化

茶道・華道・舞台芸能・美術工芸・武道など、日本文化を生み出し醸成する場を作ってきました。



素材

山の木をはじめとする、土・竹・石・紙等の地域の自然素材。



未来へ

製造・利用・廃棄時の環境負荷が少なく、資源循環型の社会を築く、礎となります。



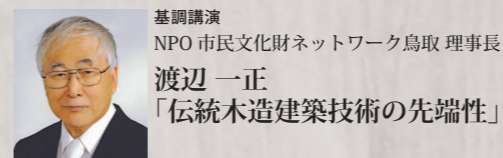
伝統建築を未来に伝えることによって、日本人が古くから営み続けた、自然との共生、木材資源の流通、森林の活性化など、ほんらいの日本の姿と心を復活させるであろう。

梅原猛

哲学者・文化勲章受賞者・「伝統構法をユネスコ無形文化遺産に」呼びかけ人
 出典：一般社団法人「伝統を未来につなげる会」会報誌『伝統を未来に』第一号より

伝統構法を UNESCO 無形文化遺産に！ [キックオフフォーラム]

13:00 受付開始
 13:30 開会 ご挨拶：中村 昌生 会長
 主旨説明：事務局 大江 忍



伝統とは、その前の時代から継承する価値があると認められ、引き継がれてきた種々の工夫の総体である。固定的で無く、常に進歩・前進する「伝統＝先端」としてもよい。均質さを前提とし、それからはずれるものを切り捨てる近代工学と違い、伝統木造では、樹種や生育環境、樹木の部位などによって異なる木材の特性を「適材適所」にうまく引き出し、さまざまなニーズの各種の部材に使い分け、接合部の複雑な挙動に巧みに対応させる。この「伝統＝先端の木造技術の凄さ」を紐解く。

パネルディスカッション
 「日本の生活文化と伝統構法」

コーディネート
 中村 昌生

パネラー



伝統構法に携わる若き大工達によるメッセージ

17:00 閉会
 18:30～20:00 懇親会 (要参加申込み)

2015年
3月28日(土) 13:00～17:00
 (開場 12:50)
会場：ひと・まち交流館 京都 大会議室 (定員300名)
 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83-1 (河原町通五条下る東側)
 参加費：1,000円
 主催：伝統木造技術文化遺産準備会
 共催：一般社団法人 伝統を未来につなげる会
 これからの木造住宅を考える連絡会
 後援：一般財団法人 京都伝統建築技術協会、公益財団法人 竹中大工道具館
 NPO法人 日本伝統建築技術協会、NPO法人 伝統木構造の会
 NPO法人 緑の列島ネットワーク、NPO法人 日本民家再生協会
 職人がつくる木の家ネット、削ろう会、研ろう会、木工具温故会
 京都建築専門学校、日本建築専門学校、NPO法人 川越 蔵の会
 公益社団法人 日本左官会議、京都市(予定)、京都府(予定)

太古から自然と共生してきた日本人は、その暮らしの中から家づくりの技術をつくり上げてきた。それが「伝統構法」である。自然と共に呼吸する住まいから、独自の生活文化(茶・花・香など)を発達させた。この家づくりの技が廃れるならば伝統文化も廃れるに違いない。この世界に比類のない伝統技術(大工、左官、屋根、建具、畳など)が無形文化遺産に登録されるよう、力を尽くそうではありませんか。

伝統木造技術文化遺産準備会 会長
中村 昌生

京都工芸繊維大学・福井工業大学 名誉教授
 一般財団法人 京都伝統建築技術協会 理事長
 一般社団法人 伝統を未来につなげる会 代表

会場：ひと・まち交流館 京都 大会議室
 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83-1



参加申込み

Web サイト上の申込みフォーム、または FAX にて「氏名、所属、人数、メールアドレス、連絡先」をお送りください。定員300人、先着順にて受け付けます。参加費は、当日受付にてお支払いください。

伝統木造技術文化遺産準備会

伝統構法を無形文化遺産に で検索

〒606-0805 京都市左京区下鴨森本町15 生研ビル内
 Tel : 075-781-3339 (担当 大江)
 Web : <http://dentoh-isan.jp/>

Fax : 075-711-2823
 Mail : info@dentoh-isan.jp

